

日本学術会議第 1 7 2 回総会資料

(第 2 3 期 第 5 回)

平成28年 10月6日(木)

10月7日(金)

10月8日(土)

日 本 学 術 会 議

一 般 的 注 意 事 項

1 出席のサインについて

総会に出席される方は、受付で出席のサインをお願いします。

2 旅費の支給について

旅費請求書を配付いたしますので、押印してください。

3 発言する場合

発言を要求する際には挙手をし、議長から指名された後に、最寄りのマイクを通して所属部、氏名を言ってから発言してください。

4 委員会開催の周知について

総会期間中の各種委員会の開催時間・会場等については、1階の電光掲示板にてお知らせいたします。

5 その他

配付資料については、必要な資料はお持ち帰りいただき、不要な資料は席上にお残してください。

第172回総会日程

— 第23期第5回 —

第1 日程表

10:00		12:00		13:30		15:00		16:30	
10 月 6 日 (木)	総会①		昼休み	総会②		部会		幹事会	
	・ 会長活動報告			・ 特別講演					
	・ 各副会長活動報告			李遠哲先生による特別講演					
	・ 年次報告書報告			・ 審議経過報告					
				①安全保障と学術に関する検討委員会					
10:00		12:00		13:30				16:30	
10 月 7 日 (金)	部会		昼休み	総会③				日本学術	
				・ 審議経過報告				会議・同	
				②オープンサイエンスの取組に関する検討委員会				友会共催	
				③学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会				懇親会	
				・ 各部活動報告					
				・ 自由討議					
				・ 次期改選に係る説明【非公開】					
				・ 『学術の動向』について					
10:00									
10 月 8 日 (土)	各種委員会等								

(総会中の日程は、審議の状況により変更される場合があります。)

第2 会場

総会……講堂

その他委員会等……当日掲示板等で通知

報	1
総 会	1 7 2

日 本 学 術 会 議 活 動 状 況 報 告

平成 2 8 年 1 0 月 6 日

前回（第 1 7 1 回）総会以降の活動状況報告

第 1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4 月 19 日（火）	第 18 回総合科学技術・イノベーション会議	大西会長
4 月 19 日（火）	科学技術予算の抜本的拡充に関する要請（総理官邸）	大西会長
4 月 19 日（火）	G サイエンス学術会議共同声明の総理手交	大西会長 向井副会長 花木副会長
4 月 20 日（水）	2016 年(第 32 回)日本国際賞 祝宴（帝国ホテル東京）	大西会長
4 月 23 日（土）	日本学術会議主催学術フォーラム「原子力発電所事故後の廃炉への取組と汚染水対策」（日本学術会議講堂）	花木副会長
4 月 26 日（火） ～5 月 1 日（日）	ICSU CFRS ワークショップ(メキシコシティ)	井野瀬副会長
4 月 26 日（火）	「科研費審査システム改革 2018」説明会（東京大学安田講堂）	花木副会長
4 月 27 日（水）	園遊会（赤坂御苑）	花木副会長
4 月 28 日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
4 月 28 日（木）	外国プレス向けブリーフィング「総理への G サイエンス学術会議共同声明の直接提出について」（Foreign Press Center）	大西会長 花木副会長
5 月 2 日（月）	日本学術会議主催公開シンポジウム「熊本地震・緊急報告会」（日本学術会議講堂）	大西会長
5 月 17 日（火）	第 36 回 EU-Japan Interparliamentary Meeting レセ	大西会長

	プシヨン（駐日欧州連合代表部）	
5月20日（金）	第1回科学オリンピック推進会議（文部科学省）	花木副会長
5月24日（火）	科学技術外交シンポジウム—科学技術を通じた日本外交の新たな方向—（政策研究大学院大学）	花木副会長
5月26日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
5月26日（木）	記者会見「安全保障と学術に関する検討委員会」の設置について	大西会長
5月28日（土）	第19回国際細胞学会議（パシフィコ横浜）	花木副会長
5月29日（日） ～6月2日（木）	第16回アジア学術会議年次会合 （スリランカ・コロンボ）	大西会長
6月1日（水） ～6月4日（土）		花木副会長
5月29日（日） ～5月31日（火）	第8回 ICSU「都市環境の変化と健康」科学委員会（フランス・パリ）	花木副会長
6月16日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
6月22日（水）	日本学術会議中部地区会議学術講演会「新学術創成への挑戦と取組」（金沢大学自然科学大講義棟レクチャーホール）	花木副会長
6月27日（月）	ゴールドシュミット会議 2016（パシフィコ横浜）	花木副会長
6月28日（火）	公開シンポジウム「フロンティアを目指す、サイエンスとアート」（講堂）	向井副会長
7月14日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
7月16日（土）	日本学術会議主催公開シンポジウム「熊本地震・三ヶ月報告会」（講堂）	大西会長 井野瀬副会長
7月20日（水）	日本学術会議公開シンポジウム「総合工学シンポジウム 2016 知の統合を如何に達成するか — 総合工学の方向性を探る —」（講堂）	花木副会長
7月21日（木）	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
7月21日（木）	JST 主催セミナー「持続可能な開発目標(SDGs)と科学技術イノベーション」（JST 東京本部）	花木副会長
7月22日（金）	日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会「い	大西会長

	のちを守る見事な仕組み」(ニューウェルシティ宮崎)	
7月24日(日)	第31回国際心理学会議 開会式(パシフィコ横浜)	大西会長
7月26日(火)	第31回国際心理学会議インバイティッド・スピーカーズ・ディナー(横浜ロイヤルパークホテル)	大西会長
7月28日(木)	第4回科学技術イノベーション政策推進専門調査会	大西会長
8月2日(火) ～8月3日(水)	第三部夏期部会(ホテルアソシア豊橋・豊橋技術科学大学)	大西会長 花木副会長
8月4日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
8月6日(土)	平成28年度女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～(独立行政法人国立女性教育会館 ※ビデオレター送付)	井野瀬副会長
8月8日(月)	第18回結晶成長国際会議(名古屋国際会議場)	大西会長
8月10日(水) ～8月11日(木)	第一部夏期部会(日本学術会議)	大西会長 井野瀬副会長
8月15日(月)	全国戦没者追悼式(日本武道館)	大西会長
8月18日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
8月18日(木) ～8月19日(金)	第二部夏期部会(東京大学本郷キャンパス)	大西会長
8月25日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
8月26日(金)	産学官連携功労者表彰授賞式	向井副会長
8月27日(土) ～8月28日(日)	第1回防災推進国民大会(東京大学本郷キャンパス)	大西会長
8月28日(日)	世界考古学会議第8回京都大会(同志社大学今出川キャンパス)	花木副会長
9月4日(日)	第15回分子磁性国際会議(仙台国際センター)	花木副会長
9月8日(木) ～9月10日(土)	STS Forum SRI LANKA 2016(スリランカ・コロンボ)	大西会長
9月10日(土)	日本学術会議「脳と意識」・「神経科学」・「脳とこころ」分科会合同市民公開シンポジウム 「自己を知る脳・他者を理解する脳 ～融合的アプローチによる社会脳研究の魅力～(講堂)	大西会長

9月10日(土) ～9月16日(金)	International Data Week 2016 (米国・デンバー)	大西会長
9月14日(水)	ベトナム科学技術連合会 (VUSTA) 一行 表敬訪問	花木副会長
9月24日(土) ～9月27日(火)	IAP 等合同会議 (中国・北京)	大西会長
9月26日(日) ～10月2日(日)	フランスアカデミー350周年式典、EC-INGSA、WSF SC (フランス・パリ、ベルギー・ブリュッセル)	花木副会長
9月29日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
10月1日(土) ～10月2日(日)	STS フォーラム 2016 (京都国際会館)	大西会長
10月5日(水) ～10月9日(日)	ICSU・CFRS (フランス・パリ)	井野瀬副会長

第2 会長談話

次の会長談話を公表した。

- 1 The 2016 Kumamoto Earthquake on April 16 and Our Actions
(平成28年 5月9日公表)
- 2 「日本学術会議第23期1年目(平成26年10月～平成27年9月)の活動に関する評価」における指摘事項に対する考え方について
(平成28年6月14日公表)

第3 提言等の承認

○提言

- 1 史学委員会高校歴史教育に関する分科会
提言「『歴史総合』に期待されるもの」
(平成28年5月16日公表)
- 2 心理学・教育学委員会
提言「18歳を市民に一市民性の涵養をめざす高等学校公民科の改革」
(平成28年5月16日公表)
- 3 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会、自然史財の保護と活用分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会、基礎

生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会
提言「国立自然史博物館設立の必要性」

(平成28年5月17日公表)

4 数理科学委員会数学教育分科会

提言「初等中等教育における算数・数学教育の改善についての提言」

(平成28年5月19日公表)

5 オープンサイエンスの取組に関する検討委員会

提言「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」

(平成28年 7月6日公表)

○報告

1 地球惑星科学委員会SCOR分科会

報告「我が国の海洋科学の推進に不可欠な海洋研究船の研究航海日数の確保について」

(平成28年 6月9日公表)

2 社会学委員会討論型世論調査分科会

報告「高レベル放射性廃棄物の処分をテーマとしたweb上の討論型世論調査」

(平成28年8月24日公表)

3 総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会

報告「大型レーザーによる高エネルギー密度科学の新展開」

(平成28年8月24日公表)

第4 日本学術会議主催学術フォーラム

1 日本学術会議主催学術フォーラム「原子力発電所事故後の廃炉への取組と汚染水対策」を平成28年4月23日(土)に日本学術会議講堂にて開催した。

2 日本学術会議主催学術フォーラム「若手生命科学研究者のキャリアパスについて考える～卓越研究員制度の現状と未来、そしてさらなる可能性～」を平成28年9月12日(月)に東京大学にて開催した。

第5 国際会議の開催

1 「第19回国際細胞学会議」を平成28年5月28日(土)～6月1日(水)に神奈川県にて開催した。

2 「第16回アジア学術会議」を平成28年5月30日(月)～6月1日(水)にス

リランカにて開催した。

- 3 「ゴールドシュミット会議2016」を平成28年6月26日(日)～7月1日(金)に神奈川県にて開催した。
- 4 「第31回国際心理学会議」を平成28年7月24日(日)～29日(金)に神奈川県にて開催した。
- 5 「第18回結晶成長国際会議」を平成28年8月7日(日)～12日(金)に愛知県にて開催した。
- 6 「世界考古学会議第8回大会」を平成28年8月28日(日)～9月2日(金)に京都府にて開催した。
- 7 「第15回分子磁性国際会議」を平成28年9月4日(日)～8日(木)に宮城県にて開催した。

第6 日本学術会議地区会議

- 1 日本学術会議中部地区会議等主催学術講演会「新学術創成への挑戦と取組」を平成28年6月22日(水)に石川県にて開催した。
- 2 日本学術会議九州・沖縄地区会議等主催学術講演会「いのちを守る見事な仕組み」を平成28年7月22日(金)に宮崎県にて開催した。
- 3 日本学術会議第三部・中部地区会議等主催市民公開講演会「科学技術の光と影 市民との対話から考える自動運転システムの未来」を平成28年8月2日(火)に愛知県にて開催した。

第7 会員の辞職及び任命

1 会員の辞職

萩原一郎会員が、平成28年5月31日付で定年退職した。

依田照彦会員が、平成28年9月13日付で定年退職した。

小森田秋夫会員が、平成28年9月23日付で定年退職した。

2 会員の任命

大倉典子連携会員が、平成28年5月15日付で会員に任命された。

小澤 徹連携会員が、平成28年5月15日付で会員に任命された。

米田雅子連携会員が、平成28年5月15日付で会員に任命された。

第8 慶弔等

1 慶事

2016年ノーベル生理学・医学賞 平成28年10月3日公表

大隅 良典（連携会員(第22-23期)）

平成28年春の褒章受章者 平成28年4月29日公表

【紫綬褒章】

永原 裕子（元会員(第20-22期)、連携会員(第23-24期)）

高山 博（元連携会員(第20-22期)）

清木 元治（元連携会員(第20-21期)、会員(第21-23期)）

篠原 久典（元連携会員(第21-22期)）

松岡 信（元連携会員(第20期)）

平成28年春の叙勲受章者 平成28年4月29日公表

【瑞宝重光章】

関谷 剛男（元連携会員(第20-21期)）

【瑞宝中綬章】

牛島 和夫（元連携会員(第20-21期)）

尾島 俊雄（元会員(第18-19期)、元連携会員(第20-21期)）

金岡 祐一（元会員(第15-17期)）

楠田 哲也（元会員(第19期)、元連携会員(第20-21期)）

隆島 史夫（元会員(第16-17、19期)）

谷口 直之（元会員(第20-21期)、連携会員(第22-23期)）

谷口 克（元会員(第20期)、元連携会員(第21-22期)）

永井 美之（元連携会員(第20-21期)）

橋本 康（元会員(第18-19期)、連携会員(第20-21、22-23期)）

堀内 昶（元連携会員(第21-22期)）

2 ご逝去

梶 雅範（かじ まさのり） 平成28年7月18日 享年60歳

連携会員（第23-24期） 東京工業大学大学院社会理工学研究科教授

徳永 宗雄（とくなが むねお）平成28年8月1日 享年71歳

連携会員（第22-23期） 京都大学名誉教授

山口 嘉夫（やまぐち よしお）平成28年8月12日 享年90歳

元会員（第16期） 東京大学名誉教授

第9 その他

事務局人事異動

事務局次長

旧：千葉 明

（平成28年6月15日付）

新：竹井 嗣人

（平成28年6月17日付）

企画課長

旧：吉住 啓作

（平成28年6月17日付）

新：小林 真一郎

（平成28年6月17日付）

報	2
総 会	1 7 2

2016年4月～9月 活動報告

第172回総会 2016年10月6日(木)
日本学術会議会長
大西隆

23期を通じて実現すべきこと

■責任ある助言者としての日本学術会議

- 人文・社会科学・国立大学のあり方に関する幹事会声明(2015年10月)
- 学術フォーラム「少子化・国際化の中での大学改革」開催(2016年1月)

■学術活動の発展方向、新たな必要領域を積極的に示す日本学術会議

- 学術の大型研究計画、FE等、科学研究の新たな領域を提示
- 農学・統計学・哲学・情報学分野の大学教育の質保証

■信頼される国際的なパートナーとしての日本学術会議

- Gサイエンス学術会議2016(2016年2月に会合、4月19日総理手交)
- IAP総会で、執行委員メンバーに選出(2016年3月)
- STSフォーラムに参加(2015年10月、WSFに参加2015年)

次の半年に取り組む課題(2016年4月総会)

1. 重要課題への取り組み

大学改革・研究資金改革

大型研究計画

防災・減災 東京会議・仙台会議を経て、学術の観点から防災・減災に積極的に取り組む、東日本大震災からの復興への取組

科学研究の健全性

2. 先行的な課題発掘と提言活動

3. 国際活動の推進(Gサイエンス、FE、SCA含む国際会議)

4. 会員選考 新・分野横断的領域。地区活動を支える。若手アカデミーを意識した選考。

5. 評価への対応

「日本学術会議の今後の展望」、日本学術会議の評価を受けて、諸改革を進める

6. 計画的な財務管理

1. 重要課題への取り組み(1)

・大学改革・研究資金改革

- ・ 科学・技術研究の曲がり角 国立大学の運営費交付金、科学技術基本計画の政府投資目標に関する議論 重点を置くことができるかどうかで、将来の日本の科学技術の発展だけではなく、経済・社会活動に大きな影響
- ・ 「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会」、「学術研究推進のための研究資金制度のあり方に関する検討委員会」等での議論が進行。
- ・ 人文・社会科学のあり方の議論などを含めて、将来の学術と公的支援のあり方に関する転換期の議論として重要。
- ・ 「安全保障と学術に関する検討委員会」、「医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会」が新たに発足。
- ・ 「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」(7月6日)を発表。
 - ・ 9月国際データ週間・フォーラム(デンバー)に参加し、オープンデータに関する議論を行う。

1. 重要課題への取り組み(2)

- 防災・減災一熊本地震への取り組み
 - 日本学術会議と防災学術連携体が熊本地震の被害実態、メカニズム、復興支援に学際的観点で取り組む。
 - 共同記者会見、「熊本地震・緊急報告会」(5月2日)、「熊本地震・3か月報告会」(7月16日)を実施。
 - 防災推進国民会議への参加(8月末)。
- 「原子力利用の将来像に関する検討委員会・原子力発電の将来検討分科会」が、今期も発足し、継続性を重視しつつとりまとめを目指す。
- 「高レベル放射性廃棄物の処分をテーマとしたweb上の討論型世論調査」(社会科学委員会討論型世論調査分科会(8月〇日))
- 「持続可能な地球社会の実現をめざして—Future Earth(フューチャー・アース)の推進」(4月5日)—提言を公表

3. 国際的な活動

- Gサイエンス学術会議 総理大臣への手交
 - 「脳科学研究の推進」、「災害レジリエンスの強化」、「未来の科学者の育成」の3テーマで共同声明。Gサミット議長のアベ総理に手交(4月19日)
- SCA(アジア学術会議)成功裡に開催(第16回、スリランカ)。
- FE(フューチャー・アース)活発な活動
- ICSU、ISSCに統合の動き。日本学術会議も科学者の声を一つにする仕組みづくりに賛同。

4. 会員選考

- コ・オペレーションの定着のため、内外に理解を広めながら会員選考を進める。
- 女性会員数30%の目標達成。
- 地方、学際領域、先端領域、種々の分野の科学者の登用を積極的に図る。
- 連携会員については、若手アカデミーの活動を担う人材の登用。
- これらが的確に実現できる会員選考の仕組み。

夏季部会

- 夏季部会では、会員・連携会員選考、安全保障と学術等が共通に議論されたとともに、それぞれのテーマ(科学技術の光と影、人文・社会科学問題、ゲノム編集)が公開講演会で取り上げられた。
- 第3部の公開講演会では80名の高校生が参加活発な質問がなされ、地域との交流が行われた。

日本学術会議の移転問題

- 1省庁1機関移転の地方移転(竹下内閣、1988年閣議決定))で日本学術会議も移転対象になる。横浜への移転が明記。
- その後、移転時期の延期を繰り返す
- 現在 平成30年度移転の予定
- 幹事会付置委員会「移転検討委員会」を発足させ、「移転に関わる種々の可能性」を巡って議論を開始。

日本学術会議の財務問題

- 2015年度も財務危機。旅費、手当について対策を講ずる。(暫定辞退、ビデオ会議)
 - 会員手当は残額が出る。委員手当は暫定辞退を適用。
 - 旅費については最も厳しかったが、1,000万円余の残額
- 2016年度には、計画的執行管理を適用。
 - 総会、夏季部会、幹事会に優先割り当て
 - 一定の留保の下で、機能別・課題別・若手アカデミーに割り当て
 - 残りを分野別委員会等に各部署関係均等に割り当て
 - 第1四半期のデータでは、今年度も厳しい。迅速な現状把握で的確な対策実施。

次期の活動方針(2016年10月～2017年3月)

1. 重要課題への取り組み

大学改革・研究資金、安全保障と学術、原子力発電の将来、放射性核種の安全管理問題、防災・減災

2. 委員会・分科会の審議のまとめ

各委員会、分科会等において、鋭意審議のまとめに入る。

3. 国際活動の推進

FE、ICSU/ISSC、AASSA、Gサイエンス

4. 会員選考

新・分野横断領域、女性会員・連携会員、地区活動、若手アカデミー。

5. 計画的な財務運営

報	3
総 会	1 7 2

副会長活動報告



平成28年10月6日
第23期 日本学術会議副会長
向井 千秋

「科学者委員会」の活動

- I 「協力学術研究団体」関係
- II 「地区会議」との連携関係
- III 「学術の大型研究計画検討分科会」関係
- IV 「男女共同参画分科会」関係

I 協力学術研究団体関係

- ◆ 新規指定申請の審査
 - ・平成28年4月以降、6団体を指定。
 - ・累計で2,015団体を指定(本年9月末現在)。
- ◆ 協力学術研究団体の実態調査を継続予定
 - ☆日本学術協力財団、科学技術振興機構と連携して実施。
 - ・日本学術会議との一層の連携強化を図る
 - ・協力学術研究団体の質の向上を図る
 - ・制度の適正な運用を図るための基礎データ
収集を目的として実施(Web「[学会名鑑](#)」公開)

II 地区会議との連携関係

- 国内各地域の科学者との意思疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与することを目的。
- 全国を7ブロックに分けて活動。
- 平成28年度は、今後、札幌・山形・岐阜・京都・岡山・那覇の6都市において 学術講演会や地域科学者との懇談会を開催予定。
(既に、金沢・豊橋市・宮崎市、において実施済)
- 「地区会議ニュース」を7回発行予定。

Ⅲ 「学術の大型研究計画検討分科会」関係

- 「報告：学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」（本年1月決定）
- 策定方針に基づき大型研究計画の公募（3月末締切）
- 21の小分科会を設置し、精力的に審査を実施
- 第23期内に、「マスタープラン2017」を策定予定

Ⅳ 「男女共同参画分科会」関係

- 科学に関する男女共同参画の推進に関することを議論。
- 昨年既に、「第4期男女共同参画基本計画」の閣議決定を見据え、「提言」の発出及び「学術フォーラム」を開催。
- 今後は、来年5月下旬に日本で初めて開催される「ジェンダーサミット10」に向け、ジェンダー関係分科会とともに、ジェンダーサミット10分科会と連携。

☆ 科学者委員会の今後の活動予定 ☆

- 科学者委員会の各分科会の在り方
- 協力学術研究団体の指定の在り方、質の向上
- その他、委員会として定められた職務を実施

報	4
総 会	1 7 2

副会長報告

科学と社会委員会および課題別委員会の 活動状況に関する報告

平成28年4月～平成28年9月の活動



「政府・社会・国民との関係」担当副会長
井野瀬久美恵
平成28年10月6日

政府・社会・国民との関係の基本方針



報告書「日本学術会議の今後の展望について」を踏まえた対応を視野に、日本学術会議が「わが国の科学者の内外に対する代表機関として、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させる」ために、従来の活動を継承するとともに、政府・社会・国民との連携を一層、強化する。

提言・助言
機能の強化

社会・国民と
の連携強化

政府との
連携強化

科学と社会委員会(一部組織整理含む)



科学の知の普及のためのアウトリーチ活動関連

* 科学力増進分科会

科学者委員会との合同分科会→科学と社会委員会分科会

* 「知の航海」分科会

年次報告書作成関連

* 年次報告検討分科会

提言等の意思の表出関連

* 課題別審議検討分科会

* 課題別審議等査読分科会

Gender Summit 10分科会(JSTとの協力で推進中)

幹事会附置委員会



移転検討委員会

外部評価対応委員会

広報委員会

課題別委員会(15委員会)

オープンサイエンスの取組に関する検討委員会

科学研究における健全性の向上に関する検討委員会

科学者に関する国際人権問題委員会

東日本大震災復興支援委員会

東日本大震災に係る学術調査検討委員会

原子力利用の将来像についての検討委員会



大学教育の分野別質保証委員会

フューチャー・アースの推進に関する委員会

学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会

学術研究推進のための研究資金制度のあり方に関する検討委員会

防災減災・災害復興に関する学術連携委員会

科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会

医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会

安全保障と学術に関する検討委員会

放射性核種による汚染に係る環境浄化の基礎科学に関する検討委員会



平成28年4月～平成28年9月に発出した
提言・報告（幹事会附置委員会・課題別委員会）

*** 提言「持続可能な地球社会の実現をめざして－
Future Earth（フューチャー・アース）の推進－」**
（平成28年4月5日、フューチャー・アースの推進に
関する委員会・安成哲三委員長）

*** 提言「オープンイノベーションに資するオープン
サイエンスのあり方に関する提言」**
（平成28年7月6日、オープンサイエンスの取組に
関する検討委員会・土井美和子委員長）

課題別委員会間の情報交換会(年次報告)



平成28年6月24日、課題別委員会等の代表が集まり、情報・意見交換のための会合を実施。各々独自に活動する委員会の代表が一堂に会し、これまでの活動紹介や今後の展望を議論する初の試み。

* 大学における研究・教育のあり方、その支援の仕組みに関する提言等において、連携・協力の可能性を模索する

「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える委員会」

「学術研究推進のための研究資金制度のあり方に関する検討委員会」

第一部附置「人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会」

第二部附置「生命科学における公的研究資金のあり方検討分科会」

* 国内・国際的連携体の枠組みを相互連携させる



「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」

「科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会」

* 学術会議の外へと展開する

「科学研究における健全性の向上に関する検討委員会」(文部科学省に「回答」を平成27年3月6日に提出)

⇒活動の一端が、

文部科学省の「公正な研究活動の推進に関する有識者会議」

一般財団法人「公正研究推進委員会」(APRIN、平成28年4月設立)

等へ広がる。

※総会報告・総会資料として・・・



- 幹事会声明「人文・社会科学系のあり方に関する声明への賛同・支援への謝意と大学改革のための国民的合意形成にむけての提案」の公表について
(総会資料2 年次報告第一編(17頁))
- 「安全保障と学術に関する検討委員会」の経過報告
(総会資料2 年次報告第一編、19頁/総会1日目 審議経過報告)
- 「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会」
(総会2日目 審議経過報告)

学術会議「意思の発出」と関わる動き



※ 日本学術会議会則を改正、意思の表出にかかる手続きの簡略化。

提言及び報告の表出について、委員会の承認を分科会に委任できるよう改正し、手続きを簡略化。

※ 意思の表出の英訳を制定。
意思の表出の英訳を作成する場合の
手続き及び意思の表出の名称の
英訳を決定。

意思の表出等	英訳
勧告	Advisory opinion
答申	Response to consultation
要望	Request
声明	Statement
提言	Recommendation
報告	Report
回答	Response
記録	Record

会員の皆様へのお願い



提言には、それを出す「タイミング」というものがある。特に課題別委員会からの提言には、学術会議の強みを生かして、分野横断的、俯瞰的な視点とともに、政策への現実的な反映を考えれば、「今何を議論すべきか」に関して、常に「少し先を読む」必要がある。第23期もあと1年となった今、この「少し先を読む」ことがそれぞれの委員会、分科会にとって具体的にどのようなことなのか、考えていただければ幸いである。

(年次報告、3頁)



報	5
総 会	1 7 2

日本学術会議 国際活動報告



第172回総会 2016年10月6日
第23期 国際担当副会長 花木 啓祐

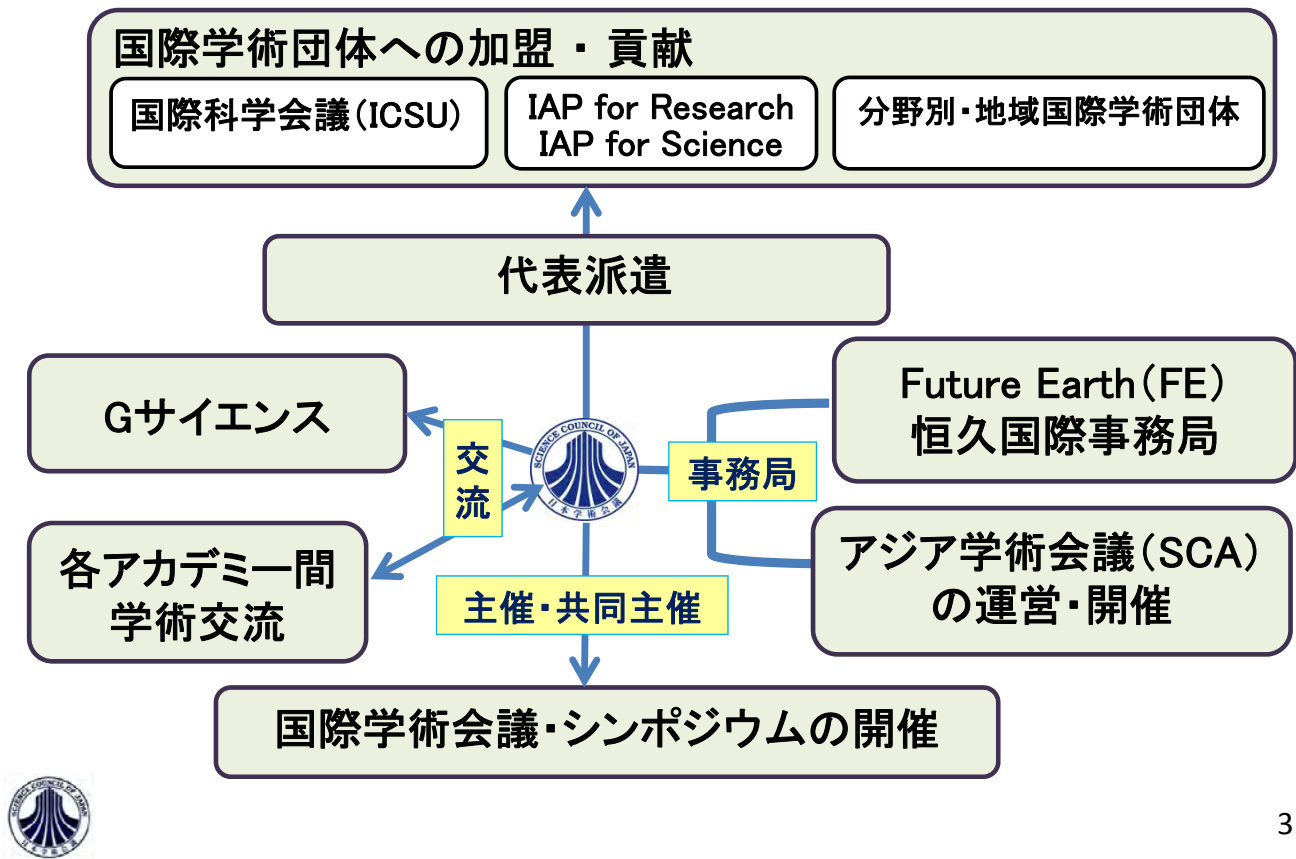


第23期の活動方針

- 個別分野の学術交流を基盤としつつ、
分野横断的な国際活動の展開
 - － 全学術分野を擁する日本学術会議の優位性
- 世界全体としての課題解決に向けた
国際学術団体との協働
 - － 国際学術団体における貢献、Future Earth
- アジア地域におけるリーダーシップの発揮
 - － アジア学術会議



国際活動の全体像



3

①国際学術団体等への貢献 (1)

- ICSU (国際科学会議) への参画
 - 科学プログラムへの参加
 - Future Earth (安成哲三連携会員)
 - Disaster Risk Reduction (林春男連携会員)
 - Urban Health and Wellbeing (花木啓祐会員)
 - 運営への参画
 - 理事 (巽 和行連携会員)
 - 科学計画・評価委員会委員 (春日文子連携会員)
 - 科学研究における自由と責任に関する委員会 (井野瀬 久美恵会員)
 - アジア太平洋地域委員会委員 (山形俊男連携会員)

4

①国際学術団体等への貢献(2)

- ICSUとISSC(国際社会科学評議会)の統合に向けた道筋(現在提案されているもの)
 - 2016年10月 ISSC総会・ICSU臨時総会
(@ノルウェー・オスロ)
 - 2017年10月 ICSU総会・ISSC臨時総会
(@台湾・台北)
 - 2018年秋 新組織立ち上げ(設立総会)



①国際学術団体等への貢献(3)

- IAP for Science(旧IAP)への参画
 - 執行委員会委員として運営への参画
- IAP for Research(旧IAC)への参画
 - 理事として運営への参画
- IAP for Science執行委員会
(2016年9月@北京)
- 組織統合
 - 旧IAP/旧IAC/旧IAMPを束ねるアンブレラ組織として、
新生IAP (InterAcademy Partnership) が2016年3月に
発足



①国際学術団体等への貢献(4)

• 世界科学フォーラム (World Science Forum)

2017年にヨルダンで開催予定

- ・ステアリング会合に参加(2016年9月
@ベルギー・ブラッセル)



• AASSA (The Association of Academies and Society of Sciences in Asia) – IAPのアジア地域メンバー

- ・地域ワークショップ(2016年9月@フィリピン・タガイタイ)に参加
- ・第3回総会に参加予定(2016年10月@トルコ・アンカラ)

• 各学術分野における交流

- ・代表派遣、共同主催などを通じて支援



7

①国際学術団体等への貢献(5)

加入国際学術団体の見直し(国際対応戦略立案分科会)

国際科学会議(ICSU)	国際生化学・分子生物学連合(IUBMB)	国際歴史学委員会(CISH)
国際天文学連合(IAU)	南極研究科学委員会(SCAR)	国際薬理学連合(IUPHAR)
国際測地学及び地球物理学連合(IUGG)	宇宙空間研究委員会(COSPAR)	国際社会科学団体連盟(IFSSO)
国際純正・応用化学連合(IUPAC)	海洋研究科学委員会(SCOR)	国際地図学協会(ICA)
国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)	国際地質科学連合(IUGS)	国際実験動物科学会議(ICLAS)
国際電波科学連合(URSI)	国際純粋・応用生物物理学連合(IUPAB)	アジア社会科学研究協議会連盟(AASSR EC)
国際生物科学連合(IUBS)	科学技術データ委員会(CODATA)	国際微生物学連合(IUMS)
国際地理学連合(IGU)	国際経済学協会(IEA)	国際農業工学会(CIGR)
国際数学連合(IMU)	国際第四紀学連合(INQUA)	IAP for Science
太平洋学術協会(PSA)	国際鉱物学連合(IMA)	IAP for Research
国際結晶学連合(IUCr)	太陽地球系物理学・科学委員会(SCOST EP)	国際北極科学委員会(IASC)
国際科学史・科学基礎論連合:科学基礎論部門(IUHPST-DLMPST)	国際自動制御連盟(IFAC)	国際土壌科学連合(IUSS)
国際科学史・科学基礎論連合:国際科学史部門(IUHPST-DHST)	国際栄養科学連合(IUNS)	国際社会科学評議会(ISSC)
国際理論応用力学連合(IUTAM)	世界工学団体連盟(WFEO)	アジア科学アカデミー・科学協会連合(AASSA)
国際生理科学連合(IUPS)	国際経済史協会(IEHA)	
国際光学委員会(ICO)	世界気候研究計画(WCRP)	

対応する各国内委員会による活動報告に基づく評価→すべて適切



② 各国アカデミーとの連携・交流(1)

- Gサイエンス学術会議(2016)の共同主催
 - 日本学術会議が主体となって、下記の3つの共同声明をとりまとめ
 - (1)脳科学
 - (2)災害レジリエンス
 - (3)未来の科学者
 - 安倍総理に声明を手交(2016年4月)
 - G7茨城・つくば科学技術大臣会合
つくばコミュニケにて言及
- Gサイエンス学術会議(2017)への対応
 - 来年はイタリアが主催・とりまとめ
 - 芸術都市と防災に関する国際会議(2016年10月
@イタリア・ローマ)に参加予定



9

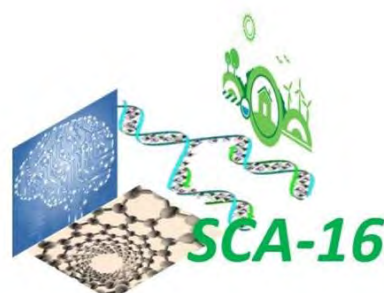
② 各国アカデミーとの連携・交流(2)

- イスラエル科学・人文アカデミーとの学術協力
第2回 日本－イスラエル・ワークショップ
「サンゴ礁に関する生物多様性」開催予定
 - ・ 2016年11月30日、12月1日
 - ・ 沖縄科学技術大学院大学(OIST)及び日本サンゴ礁学会(日本学術会議協力学術研究団体)と共催し、沖縄県で開催予定
- 韓国科学技術アカデミーとの学術協力
 - 2016年11月に先方の主催シンポジウムに参加予定



③ アジア学術会議の運営・開催

- 吉野 博会員が事務局長、SCA等分科会が担当
- 2016年5-6月 コロンボ(スリランカ)で第16回大会開催
 - Science for the People: Mobilizing New Technologies for the Sustainable Development in Asia
 - 約20カ国/地域から約150人が参加
- 第17回大会は2017年6月 フィリピンで開催
- AASSAの対応もSCA等分科会にて統合的に扱う



16th Conference of the Science Council of Asia

Theme:

Science for the People: Mobilizing Modern
Technologies for Sustainable Development in Asia



11

④ 国際学術会議の共同主催並びに後援(1)

持続可能な社会のための科学と技術に関する
国際会議を2016年度に開催予定

- ① 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた超学際研究と
マルチステークホルダー協働の推進(仮題)

Promoting Transdisciplinary Research and Multi-stakeholder
Collaboration for Achieving Sustainable Development Goals

- ② AASSA地域ワークショップとして開催
包摂的な社会のための科学の役割(仮題)

Role of Science for Inclusive Society



30

12

④国際学術会議の共同主催並びに後援(2)

共同主催国際会議を開催

- ・第13回国際人類遺伝学会(2016年4月3日～7日)
- ・第19回国際細胞学会議(同5月28日～6月1日)
- ・ゴールドシュミット会議2016(同6月26日～7月1日)
- ・第31回国際心理学会議(同7月24日～29日)
- ・第18回結晶成長国際会議(同8月7日～12日)
- ・世界考古学会議第8回大会(同8月28日～9月2日)
- ・第15回分子磁性国際会議(同9月4日～8日)

国際会議を後援

6件を後援



第18回結晶成長国際会議

13



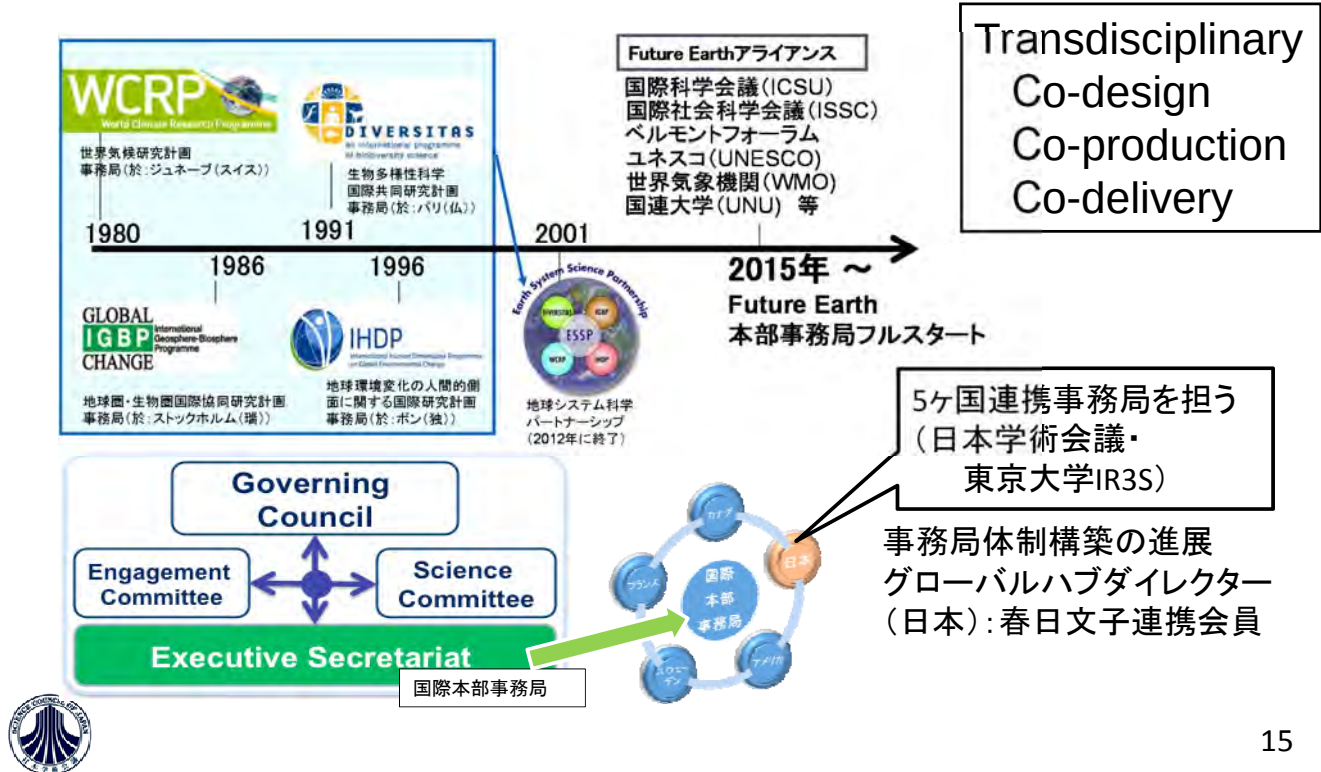
⑤代表派遣

- ・平成28年度の代表派遣計画45件、延べ47人を実施中
- ・追加募集実施
- ・若手アカデミー会員の派遣
 - － 2016年5月に若手アカデミーメンバー2名をオランダのGYA (Global Young Academy)総会へ派遣。



⑥フューチャー・アースの推進と国際事務局運営(1)

「フューチャー・アースの推進に関する委員会」



15

⑥フューチャー・アースの推進と国際事務局運営(2)

- 2016年4月 提言の発出
「持続可能な地球社会の実現を目指して-
Future Earth (フューチャー・アース) の推進-」
- 2016年6-7月 Governing Council, Engagement Committee, 及び Science Committee (@ スイス・ベルン, トゥーン) に参加
- 2016年7月 国連持続可能な開発目標 (SDGs) に関するハイレベル政治フォーラム (@ 米国・NY) に参加

16